

ぼくのゆめ

一年四組 津森 かんすけ

ぼくには、今年で九十二歳

になるおじいちゃん、八十
四歳になるおばあちゃんがい
ます。ぼくは、広島市内で生
まれましたが、一歳になる前
に、西条に戻ってきて、今は、
おじいちゃんとおばあちゃん
の隣の家に住んでいます。

幼稚園の時は、おじいちゃ
んやおばあちゃん、隣の藤原
のおじいちゃんとおばあちゃんが、
いつも家を出る時には送って
くれて、帰った時も迎えてく
れました。

お腹がすいた時、のどが渴
いた時は、おじいちゃんちか、
藤原さんちに、よく行ってい
ました。そんな時は、いつも、
優しく何でも食べさせてもら
い、こんなに大きくなれまし
た。お母さんに怒られた時も、
おじいちゃんちに行っていま
す。

ぼくは、よくおじいちゃん
や妹と、自転車で遊びます。
おじいちゃんと、競争したら、
いつもぼくが勝ちます。

でも、ぼくが勝てないこと
があります。それは、おじい
ちゃんやおばあちゃんが、と
つても物知りなところですよ。

ぼくが生まれる、ずっとず
つと前のことをよく知ってい
ます。昔の西条の話、戦争の
時の話、おじいちゃんが子ど
ものときや、働いていたとき
の話、いろんな話をたくさん
してもらって、とてもうれし
いです。

ぼくのお父さんが生まれた
時には、おじいちゃんとおば
あちゃんがもういなかったの
で、おじいちゃんとおばあ
ちゃんとお話ができるぼくをう
らやましい、と言っています。
これからも、ずっといろんな
お話を聞かせてほしいです。

それと、ぼくには夢があり
ます。おじいちゃんと一緒に、
富士山に登ることです。おば
あちゃんは足が悪いので、お
じいちゃんとぼくが富士山に
登っている時に、下から大き
な声で応援してもらいます。

おじいちゃん、おばあちゃ
ん、ぼくがもう少し大きくな
ったら、富士山に連れて行っ

てあげるので、元気に長生き
してください。ぼくは、おじ
いちゃんとおばあちゃんがだ
好きですよ。



いろいろと教えてくれる

おじいちゃん

おばあちゃんへ

一年五組 奥谷 みい

わたしは、六月からおじい
ちゃん、おばあちゃんと暮ら
しています。

一緒に住むようになって、
おじいちゃんとおばあちゃん
にたくさんのお話を教えても
もらいました。

例えば、草ぬきです。休み
の日には、おじいちゃんやお
ばあちゃんとよく庭の草をぬ
きます。

「一緒にぬこう。」

と、言われると、(ようし。が
んばるぞ。)と、いう気持ち
が沸いてきます。手でぬける草
もあります。

草がぬけなくて困っている
と、おばあちゃんが
「草をしっかりとって、その
下にスコップを入れて、横に
動かすといいよ。」

と、教えてくれました。初め
てやったので、最初は、でき
ないと思っていましたが、お
ばあちゃんが教えてくれたの
で上手にできました。ぴかぴ
かになった庭を見ると、(が
んばってよかったな。)と、思
いました。

おじいちゃん、おばあちゃ
んと住み始めて変わったこと
が二つあります。

一つ目は、家族が増えたこ
とです。おじいちゃん、おば
あちゃんと一緒に食べるごは
んは、これまでよりも、もっ
とおいしく思います。

二つ目は、学校から帰って
きた時に、おばあちゃんが家
で待っていてくれることです。
おうちに帰るとおばあちゃん

が

「おかえり。今日も暑かった
でしょ。」

と、言ってくれます。そう言
われると、とてもうれしい気
持ちになります。

おじいちゃん、おばあちゃ
ん。いつもわたしに優しくし
てくれてありがとう。わたし
も、いろんなことを早く覚え
て、おじいちゃんやおばあ
ちゃんが今までやってしてくれ
る料理や洗濯などをできるよ
うになりたいです。

そして、どんなことでもお
じいちゃん、おばあちゃんの
ために、してあげたいです。

